

医学系研究に関する情報公開文書

| | |
|---------|--|
| 研究課題名 | 甲状腺機能低下症治療後の分娩転帰と児の転帰 |
| 研究責任者 | 有吉 悠 |
| 研究機関名 | 日本赤十字社医療センター 産婦人科 |
| 研究目的と意義 | <p>甲状腺機能低下症で母体の有害事象や流産・早産が増加するという事はよく知られていますが、妊娠前に甲状腺機能低下症を診断されていてその後適切に治療された妊娠女性の分娩転帰や児の転帰を検討している文献はあまりありません。</p> <p>不妊症の分野では甲状腺機能のスクリーニングを実施することがほとんどで、甲状腺機能低下症の治療を行いコントロール良好になってから妊娠して当院紹介となることがよくあり、甲状腺機能低下症合併妊娠の方も多いため、母体や児の転帰を調査することは今後の診療においても重要です。</p> <p>適切に治療された甲状腺機能低下症の妊娠女性が分娩転帰や新生児の転帰にどのような影響を与えるか、後方視的に検討し今後の診療に活用していきます。</p> |
| 研究方法 | <p>対象は 20016 年 11 月から 2018 年 12 月までに当院で初診時に TSH を測定した妊婦の方です。診療録に記載の内容をもとに、お母さんの分娩情報や産褥経過、また甲状腺低下症の治療と臨床経過、産後のあかちゃんの状態などに関して後方視的に解析します。研究結果は論文で公表されます。</p> <p>倫理的配慮：解析は、個人情報の保護に十分配慮した上で行います。個人名が特定されないよう、患者さんの情報は匿名化されます。上記対象に該当する方で、本研究への登録を希望されない場合は、下記までご連絡ください。登録を希望されなくても不利益を被ることはありません。</p> |
| 問い合わせ先 | <p>日本赤十字社医療センター 産婦人科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22 担当者：有吉 悠 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p> |